

外部評価委員会報告

平成16年3月30日

福岡県保健福祉部長 狩野 俊秀 }
〃 環境部長 原 明輝 } 殿

福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会
会長 井上 尚英

平成15年度福岡県保健環境関係試験研究外部評価報告書

1 はじめに

本評価委員会は、「福岡県保健環境研究所における試験研究の効率的・効果的な実施と活性化及び透明性の確保」を図るため、平成14年12月に設置されたものである。

今回、平成15年度評価委員会が平成16年2月23日(月)に県庁行政棟において開催され、平成14年度終了課題・平成16年度新規課題について評価するとともに、研究所業務全般に対する意見を提出した。

今回の評価結果・意見を参考に、福岡県保健環境研究所が「保健・環境行政を科学的・技術的側面から支える中核機関」として、今後とも大きく成長されることを期待する。

2 評価委員会の評価結果

(1) 調査研究業務について

ア 平成14年度終了課題

参考資料2に示す22課題(保健関係6課題, 環境関係16課題)について評価を行った。

概ね良好な成果が得られていたが、一部課題に関し「今後の成果活用に検討の余地がある」「行政への還元を検討する必要がある」「既存技術との違い(有用性)を明確にする必要がある」などの意見を提出した。

イ 平成16年度新規課題

参考資料2に示す8課題(保健関係5課題, 環境関係3課題)について評価を行った。

課題設定に関しては概ね適当であったが、一部研究に関し「研究を効率的に推進するためには分析機器等ハード面の環境整備が必要」「外部機関等との連携が必要」などの意見を提出した。

ウ 各研究分野全般について

保健環境研究所において実施されている8研究分野に関し意見を提出した。
その概要は下記のとおりである。

	分 野	主 な 意 見
保健 関係	感染症の発生・拡大防止及び食品の安全性確保に関する研究	社会の要請に応える的確で幅広い課題が選定されており、また成果も十分に得られている。
	ダイオキシン類及び有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	健康リスク削減のために欠かせない研究が実施されており、今後の展開が大いに期待される。
	地域保健情報の解析・評価及びその活用に関する研究	地味ではあるが、総体的な把握を可能にする研究である。成果を得るのに時間を要するものであるので継続的に実施されたい。
環境 関係	ダイオキシン類、有害化学物質に関する研究	行政にとって非常に有用な研究である。成果が得られるまで継続的に実施されたい。
	大気環境汚染とその対策に関する研究	黄砂や酸性雨などの広域的な課題については、中国や韓国などとの国際共同事業として観測ネットワークを構築することを検討されたい。
	水環境汚染とその対策に関する研究	広域的な水域(有明海等)の問題解決に向けて、関係他県との共同作業や情報交換が必要である。 科学的な立場から、課題解明と解決方策の提示について努力してもらいたい。
	廃棄物の安全性と有効利用に関する研究	地域住民が安心して安全な生活をおくるためには、迅速な原因究明と対策方法の提案が必要である。そのための検査技術開発などについて努力してもらいたい。
	福岡県の自然環境と生物多様性の保全に関する研究	息の長い研究が求められる分野であるが、その意味でも貴重な成果を上げている。今後は復元目標の設定・達成に向けた研究について積極的に取り組んでももらいたい。 また、成果を環境学習に積極的に活用するよう努力してもらいたい。
	理学的要因による環境影響とその対策に関する研究	目立たないが大事な研究分野である。最低限、現状維持の調査研究を継続してほしい。

(2) 研究所業務全般について

保健環境研究所の業務全般に関し意見を提出した。

その概要は下記のとおりである。

項 目	意 見 等
調査研究業務	予算・人事など制約の多い中、水準以上の研究が行われていることは評価できる。 今後は、予算・人事を含めた長期計画の具体化及び県域で特徴のある研究テーマの抽出と絞り込みを行ってほしい。 また、外部研究機関等との共同研究・成果の実用化などについても検討されたい。
試験検査業務	緊急時に対応できる体制を常々保っておく必要があるが、その点で努力がなされており高く評価される。 今後、若手研究者の確保と育成についても積極的に取り組んでもほしい。 また、労働集約的な検査業務についてはアウトソーシングすることも検討されたい。
教育研修・情報提供業務	研究所業務・研究成果の継続的・積極的なPRを行ってほしい。 また、研究所OBを教育研修に活用する方策など、研究者の負担を軽減することを検討されたい。
その他業務全般	行政支援業務を担いながら、研究が活発に行われており評価できる。 今後は、行政の要請だけでなく県民からの依頼にも応えるような体制を構築するとともに、研究業務を更に活性化するため、人事・予算面などの制度の改善に関し行政と研究所が協力して取り組んでもほしい。 また、外部研究機関等との交流の活性化などについても検討してほしい。

3 おわりに

本評価委員会では上記のとおり評価を行ったが、評価に要する時間が限られており、また業務が専門的すぎることから、評価に不十分な点もあるものと考えられる。

保健環境研究所の業務を活性化の一助とするため、また、各委員が責任ある評価をするためにも、本評価委員会の運営方法などについて検討を行う必要がある。

福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会委員名簿

役 職	氏 名	現 職 名
会 長	いのうえなおひで 井上 尚英	九州大学大学院 医学研究院 名誉教授
副会長	くすだてつや 楠田 哲也	九州大学大学院 工学研究院 教授
	いけだとしひこ 池田 俊彦	(社)福岡県医師会 副会長
	たにぐちはつみ 谷口 初美	産業医科大学 医学部 教授
	まつふじやすし 松藤 康司	福岡大学 工学部 教授
	じんないかずひこ 陣内 和彦	九州大学 知的財産本部 アドバイザー
	とりまるさとし 鳥丸 聡	(財)九州経済調査協会 情報研究部 部長
	むらやまひろとし 村山 博俊	福岡県弁護士会

平成14年度終了課題一覧

	研 究 課 題 名	研究期間
保健 関係	パルスフィールドゲル電気泳動法（P F G E）標準化及び画像診断を基盤とした分散型システムの有効性に関する研究	H13-14
	新型腸チフス菌及び新型サルモネラの検出のための新しい検出用培地の開発	H13-14
	ビブリオ・バルニフィカスの海水中及び魚介類中の汚染実態調査	H13-14
	新しい DNA 損傷試験法による DNA 損傷を抑制する化学物質の検索	H13-14
	福岡県における低死亡率死因に関する疫学的研究	H12-14
	担子菌類によるダイオキシン汚染された環境の修復に関する研究	H13-14
環境 関係	固相検出法による内分泌攪乱物質の迅速・高感度簡易計測法の開発	H14
	ダイオキシンのオンライン・リアルタイム計測装置の開発	H13-14
	大気有害物質削減技術に関する研究	H12-14
	環境水質のバイオアッセイによる評価に関する研究	H13-14
	水環境における汚濁機構の究明と保全施策効果に関する研究 ①水環境における面源負荷の発現機構とその対策についての研究	H12-14
	水環境における汚濁機構の究明と保全施策効果に関する研究 ②公共用水域の汚濁解析のモデル化	H10-14
	再生資源を利用した環境保全型ブロックの開発	H14
	土地利用形態が影響を及ぼす流域の窒素フラックスの機構解明とその制御に関する研究	H12-14
	プラスチック廃棄物における有害化学物質の定量法と溶出防止対策の確立	H12-14
	使用済み紙おむつの再利用及び再資源化システムに関する研究	H13-14
	県内河川の自然環境特性把握に関する研究 ①河川周辺環境と水生生物の分布との関係	H12-14
	県内河川の自然環境特性把握に関する研究 ②水域環境の動物多様性に関する研究	H12-14
	生物多様性とその保全に関する研究 ①湿原植生の保全に関する調査研究	H12-14
	生物多様性とその保全に関する研究 ②里山植生の多様性とその保全技術に関する調査研究	H12-14
	光化学オキシダント高濃度予測手法の開発	H14
	衛星リモートセンシングによる二酸化炭素吸収源評価法の開発	H11-14

平成16年度新規課題一覧

	研 究 課 題 名	研究期間
保健 関係	食品由来感染症の細菌学的疫学指標のデータベース化に関する研究	H16-17
	遺伝情報に基づく流行ウイルスの生物学的、分子疫学的解析	H16-17
	呼吸器系感染症におけるウイルス検査システムの開発	H16-17
	医薬品成分を含有した健康食品の検査法の開発	H16-17
	ダイオキシン類のヒト健康影響に関する調査研究 ー油症患者ダイオキシン類追跡調査を中心としてー	H16-18
環境 関係	有明海に対する陸域からの汚濁物質解析とその挙動の解明	H16-18
	土壌汚染に係る化学物質の処理に関する研究	H16-18
	廃棄物処分場の管理手法に関する研究	H16-18

平成15年度外部評価結果を受けて

福岡県保健環境研究所 所長 吉村 健清

1 はじめに

一昨年度（平成14年12月）、「福岡県保健環境研究所における試験研究の効率的・効果的な実施と活性化及び透明性の確保」を図るため、「福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会（会長：井上 尚英^{いのうえなおひで} 九州大学大学院名誉教授）」が設置されました。

今回、第2回の委員会が平成16年2月23日（月）に開催され、平成14年度終了課題・平成16年度新規課題について評価が行われるとともに、研究所業務全般に対する意見が提出されました。

今回の委員会では、「研究を効率的かつ効果的に推進するための体制作り」「研究成果の活用」「外部機関との連携」など、数多くの貴重な御指摘・御助言をいただいております。

当所が「保健・環境行政を科学的・技術的側面から支える中核機関」として貢献するためにも、今後これらの御指摘・御助言を業務遂行に十分に反映させ、業務の活性化に取り組んでいきます。

2 主な評価結果、指摘・助言事項、及び保健環境研究所における対応

(1) 調査研究業務について

（指摘・助言事項）

- ・ 予算・人事など制約の多い中、水準以上の研究が行われていることは評価できる。
- ・ 予算・人事を含めた長期計画の具体化が必要
- ・ 研究を効率的に推進するための環境整備が必要
- ・ 県域で特徴のある研究テーマの抽出と絞り込みが必要
- ・ 外部研究機関等との連携が必要
- ・ 成果の活用、行政への還元に検討の余地あり

（保健環境研究所における対応）

- ・ 予算・人事を含めた環境整備については、今後とも改善に努めます
- ・ 研究テーマの設定にあたっては、福岡県として行うべきテーマの選定に努めています。
今後とも、県民ニーズを踏まえた特徴のある研究テーマの選定を心がけます。
- ・ 外部研究機関等との交流については、積極的に取り組んでいきます。
- ・ 成果の活用、行政への貢献については、研究者の意識改革などを含め、積極的に取り組んでいきます。

(2) 試験検査業務について

(評価結果, 指摘・助言事項)

- ・緊急時に対応できる体制を常々保っておく必要があるが, その点で努力がなされており高く評価される.
- ・若手研究者の確保と育成について積極的に取り組んでもらいたい.
- ・労働集約的な検査業務についてはアウトソーシングすることも検討されたい.

(保健環境研究所における対応)

- ・職員定数等の問題もありますが, 若手職員の確保・育成については可能な範囲で積極的に取り組んでいきます.
- ・業務のアウトソーシングについては, 県民サービスの低下を招かないことを基本にしつつ, 今後検討を行います.

(3) 教育研修・情報提供業務について

(評価結果, 指摘・助言事項)

- ・研究所業務・研究成果の継続的・積極的なPRを行ってほしい.
- ・研究所OBを教育研修に活用する方策など, 研究者の負担を軽減することを検討されたい.

(保健環境研究所における対応)

- ・現在も, インターネット, 印刷物(年報, 保環研ニュース), 成果報告会の開催, 見学の受入等によりPRを行っておりますので, これらの充実に努めます.
- ・研究所OBの活用などについては, 今後検討を行います.

(4) その他業務全般について

(評価結果, 指摘・助言事項)

- ・行政支援業務を担いながら, 研究が活発に行われており評価できる.
- ・行政の要請だけでなく県民からの依頼にも応えるような体制を構築してほしい.
- ・人事・予算面などの制度の改善に関し, 行政と研究所が協力して取り組んでもらいたい.
- ・外部研究機関等との交流の活性化などについても検討してほしい.

(保健環境研究所における対応)

- ・研修会への講師派遣など, 県民からの依頼にも積極的に対応していきます.
- ・予算・人事を含めた環境整備については, 今後とも改善に努めます. (再掲)
- ・外部研究機関等との交流については, 積極的に取り組んでいきます. (再掲)